

## 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4070402138
法人名	有限会社 笑和
事業所名	グループホーム 笑和 一ノ庄
所在地	福岡県北九州市小倉北区泉台二丁目7番19号
自己評価作成日	平成29年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成30年2月2日	評価結果確定日	平成30年3月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の皆様が施設を「家」のように感じ、地域とのつながりを感じながら、お互いがお互いを尊重・配慮しながら最大限に自由で穏やかに生活できるように努めている。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「グループホーム笑和」は、高台に在る住宅地の中に位置し、開設して14年目を迎えている。昨年、体制面での変更があり、利用者の方々の暮らしの継続を第一に、新たなスタートを切っている。途切れていた地域との関係性を結び直すべく、「ふれあい市場」や町内バザーに参加したり、新たな試みとして開催した納涼祭では、出店や花火を企画し、地域住民の参加も得ている。日常的に様々な体操や脳トレ等が行われており、心身の活性化に向けた取り組みにも熱心である。今後は、経験豊かな管理者・職員により、個別支援の充実や地域拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者との関係がお互いに協力し、穏やかな時間を過ごせるよう努めている。また、介護理念は必ず全員の職員と訪問者の目に入る玄関と、調理室に掲示し共有実践に努めている。	地域密着型サービスとしての意義を踏まえた「介護理念」を目に付きやすい場所に掲示している。法人体制の変更もあり、あらためて職員間で共有する機会となった。今後は更なる利用者本位の実践に向けて、理念の再構築も視野に入れている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ヨガ体操や歌謡ショー等のボランティアの訪問があり、交流を深めている。また、イベントの際は近隣の住民の方々をお誘いしている。月に二回のふれあい市場への参加も再開している。	一時期途切れていた近隣の集会所で開催される「ふれあい市場」への参加も再開され、民生委員の方によるヨガ教室や、2ヶ月に1回「歌謡ショー」が開催される等、ボランティアの方々の訪問がある。町内バザー参加や夜間の納涼祭も企画・実行され、地域住民との交流機会となった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域とのふれあいのイベント等に参加し、顔なじみとなり協力を得ている。また、相談等にも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では近況等に加え、直面している問題等について話し合い、出席者からのご意見やアドバイスを参考にし、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、家族、民生委員、地域包括支援センター職員、法人代表等の参加を得て、定期開催されている。運営状況や事故報告を行い、委員の方より地域交流等について提案や助言を頂いている。玄関に議事録を掲示している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席している地域包括センターの職員と地区の民生委員に事業所の取り組み詳しく伝え、ご意見を拝聴し協力関係を維持できるように努めている。また、市の介護サービス相談員の派遣を要請している。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の出席を得ており、事業所の実状を共有し、アドバイスを頂いている。行政主催の研修参加や、ケースワーカーの方との情報共有に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は常に開放しており、利用者がいつでも自由に出入りできるようにしている。玄関への出入り口は、センサーを用いリスクを管理し、拘束をしないケアに心がけている。	内部研修を計画的に実施し、身体拘束排除に向けた事業所としての理念や方針、弊害等について職員との共有認識を図っている。言葉や対応による抑制についても、管理者より指導や課題提起が行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修会で、高齢者の虐待の防止について学び、日常の業務の中でお互いに話し合い、気をつけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、当該制度を利用しているものはないが、入居時にパンフレット等を用い説明している。	現在、権利擁護制度や日常生活自立支援事業を活用している事例は無いが、資料を整備し年度内の研修実施を予定している。経験豊かな管理者のもと、必要時に活用に向けた支援が行えるよう体制づくりに取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書を事前に渡し、内容を把握していただいたうえで、疑問点や質問に対応している。体能であれば験入居も実施している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者の方々の要望等は日常にお伺いして対応している。ご家族様は来所時や運営推進会議等でその都度、ご要望ご意見を拝聴している。	運営面での変更があり、日頃から直接意見を頂けるようコミュニケーションを重ねている。家族参加型行事や事業所通信の発行に向けて取り組んでいるところである。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関するご意見や提案は、代表者や管理者のみならず、職員にも入ることがあるので、必ず管理者にあげ、反映させるように努めている。	事業所全体及び各ユニットにて、定期的に職員会議やケース会議、研修等を実施し、活発な意見交換が行われている。新体制への変更があり、今後の新たな活動展開に向けて意欲的に取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務態度や実績、年功等を鑑み、適切な評価を心がけている。働きやすいよう、個々の事情や条件を聞き入れている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用の制限はない。性別も男女を採り入れ、年齢も多様で、職員間のコミュニケーションが積極的に図られるように努め、職員の能力が発揮できるよう働きやすい環境づくりに努めている。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。現在、30代から70代までの男女職員が勤務し、体制変更後の新たな事業所づくりに取り組んでいる。また、人生経験豊かな管理者のもと、職員個々の個性や能力の発揮、主体性の成長等、働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	理念に人権の尊重を謳っており、常日頃から入居者と上下のない関係を構築するよう努めている。	高齢者虐待防止や身体拘束、認知症ケア等の研修実施や、社会的なタイムリーな話題を取り上げ管理者が課題提起を行う等、職員の人権意識の向上に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一定の職員以外、外部研修が出来ていないのが現状である。新人職員には経験豊富で弊施設の理念を体現している者をあて、日常の実務を通して学んでいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	弊グループ内での交流や意見・情報交換を継続的に行っている。また、研修等で知り合ったケアマネや介護職等とも情報交換をしている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時にご家族から出来るだけ多くの事情や情報を伺い、入居後もご本人の状態を細かく観察する。また、傾聴等のコミュニケーションを図りながら、良好な信頼関係を築くよう努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談時より、ご家族の介護の悩みや、入居者の詳細な情報をお聞きし、ご家族が望む生活ができるよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居時に、ご本人とご家族がホームでの生活の中で、何を一番望んでいるかを伺い、実践に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が「できること」「できないこと」を把握し、「できる」作業は積極的に参加できるように促し、「できないこと」は強制せず、穏やかな普通の生活の中でお互いに協力し合えるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族には、出来るだけ面会や外出の機会を多く持つようお願いしている。行事等への参加も声がけをし、イベント等にも参加していただいている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人の来訪を歓迎し、快く受け入れている。また、地域の行事等にも参加し、新たな居場所作りができるよう努めている。	以前居住されていた自宅近所の方の訪問を受けたり、旧知の方と外出される方等、これまでの関係性を大切に捉え継続に向けた支援に努めている。また、毎日仏壇に御仏飯を供える等方もおり、継続に向けた支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体調等の事情が許す限り、日中はみんなで居間で過ごせるように促している。各々にあった作業等を公平に分配し、協力し合いながら生活が出来るように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も面会に伺ったり、身寄りのない方の身の回りの世話を継続し、入居時と変わらぬお付き合いをしている。ご家族からのご連絡ご相談等もある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の悩みや要望等が直接口に出る関係作りに努めている。困難な場合はご家族に相談する。また、自分の立場と置き換え、各人にとってどのような状況・状態が望ましいか検討・実践するように努めている。	入居時の情報収集はもとより、日常の会話や表情の変化、行動等から推し測り、思いや意向の把握に努めている。日常の記録は業務的な視点が多く、更なる充実も期待されま	アセスメント情報の更新が無く、生活歴等これまでの暮らしに関する情報も少ない。実践状況は、本人本位の視点が確保されていることがうかがえ、根拠となる情報を職員間で共有していくことも期待されます。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、あるいはご家族から生活歴を聞き取り、「やっていたこと」「行っていた場所」等をホームの生活の中に少しでも取り入れられるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各々過ごし方、心身状態、有する力に相違があるので、表情、反応、行動をつぶさに観察し、それぞれにあった生活が出来るように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に見直しをしている。また、状態等の変化により適宜介護計画を変更している。その際には、ご家族や主治医のご意見も反映できるように努めている。	介護計画に基づいた記録を意識し、毎月のモニタリング・カンファレンスを通じて、現状の把握と見直しの必要性について検討に努めている。	現状は、課題対応やルーティン業務に関する内容となっている。実践されている暮らしの継続へのアプローチを盛り込むことで、自立支援に向けた関係者間の共有認識を高め、効果的なモニタリングへと結び付けていくことが期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、グループLINE、ヒヤリハット等で広く情報を共有し、介護計画の見直しを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族のニーズをその都度把握し、柔軟に対応するよう努めている。また、ニーズを発信できない利用者は、詳細な観察をし、ご本人にとって一番良い状況になるように努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	各々の地域資源を把握し、利用できるように配慮している。近隣に元々の地域資源がない利用者には、それに替わる新たな地域資源を提供している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎週、かかりつけ医の定期診断がある。その都度個々の状態を報告している。また、かかりつけ医は、ご本人ご家族の希望に沿うように努めている。	入居時にかかりつけ医について確認している。協力医療機関より定期的に訪問診療が実施され、他科受診等については家族との連携を図っている。看護記録が整備されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を採用している。また、訪問看護ステーションとの連携で、ご利用者の健康状態を把握できるように努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時、頻りに面会に伺ったり、ご家族と綿密に連絡を取り、ご本人の状態を把握するように努めている。長期入院となった際は、その後の相談にも対応している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについての話し合いや説明をし、事前確認を書面化し同意を得ている。弊ホームの実践はまだない。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を指針をもとに説明を行い、事前確認書を作成している。協力医療機関との24時間連絡体制を整備し、状況の変化に伴い、関係者の話し合いを重ねながら方針の共有に努めている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急の際は、救急車を要請する事を基本としている。応急手当の定期的な訓練は実施できていないが、都度想定問答を行っている。H29.12.心肺停止の蘇生あり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網を作成し、体制は整っている。運営推進会議を通じ、地域との協力体制を築いている。防災マニュアルを作成している。	火災・地震・風水害に対応する詳細な独自のマニュアルが整備され、利用者も参加し、夜間を想定した避難・通報・消火訓練が実施されている。個別の避難方法も表としてまとめ、今後は対応者を変更しながら訓練を重ね、管理者保有の水消火器もあり、今後は地域との連携を深めていく予定である。	運営推進会議も活用しながら、地域との連携体制づくりに取り組む意向である。緊急連絡網の試行等も行う予定である。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	身体面の羞恥心の配慮だけでなく、個人情報や言葉づかいなどお一人お一人を尊重した対応に努めている。利用者が弱者の立場に立たないよう職員の言動を観察している。	地域包括支援センター担当者より、個人情報保護に関するアドバイスも得ており、今後も研修等にて職員個々の意識向上に努めていく方針である。個別の居場所の確保や時間の流れ、自己決定の場面等を大切に捉えている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、ご本人の思いを発信できるような環境づくり、人間関係作りをし、ハナから否定しないように努めている。自己決定が出来ない利用者は、言動をつぶさに観察し、意に沿うように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事の時間や起床時間等を個々の都合に合わせている。一日の流れや時間の使用の仕方も、個々のペースを最大限に尊重し支援するように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知度が低い利用者は、ご自身の希望通りのおしゃれを楽しんでいただいている。認知度が高い利用者は、職員が気配りや配慮をしておしゃれを楽しんでいただいている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理は職員が実践している。調理の下ごしらえ、食器拭き等、利用者の能力に合わせてお手伝いをしていただいている。昼食は職員と共に会話を楽しみながら食べている。	嗜好やバランス等に配慮しながら、3食とも事業所の手作り料理を提供している。調理準備や後片付けに力を発揮してもらっている。出来る限り形状を残し、視覚や食感も楽しめるよう工夫されている。寿司の出前を注文したり、ステーキ店に外食に出かける等、普段とは違う雰囲気を楽しむ機会もある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分補給量を記録している。摂取困難者は各々に合わせた形態で提供している。必要に応じて食事介助を行い、全量を摂取していただけるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。歯磨き後にチェックをし、指導や介助を実施している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々の認知度・ADLに応じて排泄パターンを把握し、定時・随時誘導を実践している。表情等を観察し失敗を防ぐよう努めている。介護記録に排泄の有無・量を記録している利用者もある。	個別の排泄状況の把握に努め、パターンや間隔、サイン等に合わせて声掛けや誘導を行っている。現在、自立されている方も多く、プライバシーへの配慮に努めながら、失禁の減少や排泄の自立に向けた支援に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のためにも毎日適度な運動をしている。便秘症の利用者は、症状にあわせて下剤をいただいております、主治医の指示により服用している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態に合わせ、無理強いせずに週3回の入浴を実践している。入浴剤を使用したり工夫して楽しんでいただけるように努めている。	1階ユニット及び2階ユニットが交互に入浴スケジュールを組み、週に3回程度の入浴支援が行われている。希望や体調、状況等に応じて、入浴日や時間帯、シャワー浴の実施等、無理強いとならないように柔軟な対応に努めている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	車椅子利用者や体力が乏しい利用者はベッドやソファ等で休息する時間を持てるようにしている。その他の利用者には、安眠できるように積極的に日中の活動ができるよう促している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の内容が分かりやすいようにファイルしている。臨時薬は、直接口頭で伝えと共に、グループLINEや連絡帳を利用し全員が確認できるように努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各々の得意分野や関心事、生活体験を活かした役割や楽しみを持てるよう支援している。家事全般のお手伝いや買い物同行を実施している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	認知症が軽度の利用者以外から外出の希望はないが、弊ホームから外食・遠足・散歩・初詣・ふれあい市場・買い物付き添い等、定期的に外出を実施している。個人的な買い物等、希望があれば外出できるよう努めている。	近隣の散歩や買い物、役割としての洗濯物干し、気軽な外気浴等、日常的に戸外に出る機会の確保に努めている。また、外食や大型ショッピングモール、山田緑地、地域のふれあい市場への外出行事を実施している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物は行った際は、ご本人にお金を渡し支払をお願いしている。各々のお金は、ご家族やご本人の希望により責任を持ってお預かりしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や知人からの電話は必ずご本人に取り次いでいる。また、ご本人の希望があれば、いつでも電話を使用できるようにしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・玄関・廊下・居室等に季節に合わせた飾りなどを行っている。常に清潔を心がけ、毎日清掃している。明るく落ち着いた雰囲気と採光に注意を払い、快適に過ごせるよう室温調整も行っている。	廊下や階段部分には、手作り作品も含め、過度ではなく穏やかな飾りつけがなされている。全体的に落ち着いた雰囲気があり、ソファの設置や和室の小上がり等、その時々に応じたくつろぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室、居間など各々が思い思いに居場所を見つけつろいで過ごせるよう配慮している。ソファや居間のテーブルで談笑する場面も多い。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族やご本人と相談し、出来る限りこれまで使用してきた家具や寝具を使用させていただいている。また、希望により新たに好みのものを導入するときもある。	和室・洋室の設定があり、馴染みの家具の持ち込みや家族の写真が飾られ、居心地よく、安心して過ごせるよう配慮されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室・居室の表札・居間の椅子の名前の表記など「できること」を維持できるように配慮している。また、転倒の原因となるような設置物を出来る限り排除し、安全に努めている。		